

アメリカ人英語母語話者と日本人英語学習者の依頼表現の使い分けの実態

Would you....?



Could you...?



Can you...?



Will you...?

研究課題

1. **アメリカ人英語母語話者**はWould you...? Could you...? Will you...? Can you...?の依頼表現をどのような時に使うのか。
2. **日本人英語学習者**はWould you...? Could you...? Will you...? Can you...?の依頼表現をどのような時に使うのか。



本研究のきっかけ

- 日本人の英語の依頼に違和感・不快感を覚えることが多かった
- Can you speak Japanese?の依頼としての曖昧性
- その前に母語話者としてCanなど、教科書に入る時いっぱい活動などをしたのに、一年間で一時間の一部分だけ出てくる（New Horizon, New Crown）



先行研究

- 日本人は依頼表現を使い分けており、大まかに見ると傾向は母語話者と重なる部分が多いが、細かいストラテジーを見ていくと全く違う(Hill 1997)
- 日本語の依頼表現は英語の表現と直結できない
 - (Hill et al 1986) wakimae, volition
 - (Takahashi, S 1995) 日本人学生の日本語からの転移



日本の英語教育は依頼表現の使い分けにほぼ無関心

	Can you...?	Will you...?	Could you...?	Would you...?
New Horizon 1	p102	X	X	X
New Horizon 2	P48*	X	P48*	X
New Horizon 3	p45	X	P50,61	X
New Crown 1	X	X	X	X
New Crown 2	X	P76, p110	X	X
New Crown 3	p66	X	P10,90	p34

- Would youは Will youの丁寧な言い方
 - NH: 無
 - NC:「してくれませんか(してくださいませんか)。」
- Could youはCan youの丁寧な言い方
 - NH: 「してくれますか(してくださいますか)」
 - NC:「してくれませんか(してくださいませんか)」



仮説

アメリカ人の場合、これらの表現は話し手の想定している状況の中で依頼がなるべく聞き入れられやすいように利用する、つまり**方略的**に使い分けをする。「丁寧」にするかどうかは方略の一つでしかなく、必然的な要素ではない。

反面、日本人は方略的な使い分けをほぼせず、「相手に失礼はないか」ということしか考慮しない。そのためには**対人的関係と依頼の総合負担**だけで状況を判断し使い分けをする。

「Could・Can」「Would・will」は依頼表現において主に認知的に作用する違いは**依頼としての明瞭さ**である。母語話者はそこから生まれる**曖昧性**を意味的な違いと組み合わせ、「丁寧にする」を始め、**多様な方略**を実施する。

研究方法

方法: アンケート

対象者: アメリカ人5人(女性4人、男性1人)

日本人5人(女性1人、男性4人)

11の場面を設定し、アメリカ人母語話者を対象に 調査を行った

その中から本仮説に直結する4つを選別し、英語の依頼そのもの以外日本語にして日本人に配った。

負荷度(負担)の影響

CHANGE

- 今親友と体育館で運動し終わって、ジュースを買いに自動販売機まで来ている。お互い汗をかいて良い気分だが、ポケットに手を入れると財布を忘れたことに気づいた。喉がからからなので友人にお金を借りることにする。

BILL

- 明日までに電気代を払わなければ電気を切られる。払うお金はない。親友は貸せるだけのお金を持っていることは知っているが、最近よくお金を借りていて、だんだんイラついてきていることに気付いている。しかし、他にあてがないので頼んでみることにする。



社会的距離の影響

SHELF

- 最上段にある本がみたいが、ハシゴも係員も見当たらない。その本まで明らかに手が届く親しいクラスメイト・同僚が隣で本を見ているので頼んでみることにする。

BATTERIES

- 店で電池を探しているところだがどこにも見当たらない。近くに品出しをしている店員がいるので電池の場所について尋ねることにする。



2. Borrowing from a friend

今親友と体育館で運動し終わって、ジュースを買いに自動販売機まで来ている。お互い汗をかいて良い気分だが、ポケットに手を入れると財布を忘れたことに気づいた。喉がからからなので友人にお金を借りることにする。

*1. _____ you lend me some money for a drink?

	絶対言わない	多分言わない	多分言う	絶対言う
Would	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Could	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Will	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Can	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

2. 上記の選択肢以外の語で、あなたが用いる表現があれば記入してください。

*3. もし断られたとしたら、その一番の原因はなんだと思いますか。

*4. 賛成ですか。どれくらい賛成なのか、下記を評価してください。

	全く賛成できない	あまり賛成できない	やや賛成だ	完全に賛成だ
私はこれを頼む権利はない。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
これは相手にとってこなしにくいと思う。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
この依頼を聞き入れる義理があると思う。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
この依頼を聞き入れる確率は高いと思う。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

コメントもしくは疑問 (ある場合のみ)

負担の大きさの影響

小さい時

- 日本人は全員Canが使いやすい
- アメリカ人はCouldが多い

大きい時

- 日本人は全員Wouldが使いやすい
- アメリカ人は負担の大きいBillで
Would(AJ, AA, AC) Could(AA, AD), Can(AI, AD)3つとも一番に選んでいる。
 - 負担が大きいほど個人差が出やすい。



社会的距離の影響

ない時

- 日本人はCan・Willが使いやすくなる。
- アメリカ人は引き出せるパターンが特にならない。

ある時

- 日本人はCould (JS, JT, JO, JY) かWould (JN) を使用し、Can、Willを使用しない。
 - アメリカ人は全員がCanを確実に使用する。
- 

WOULD・COULD・WILL・CANは一元的？

- アメリカ人は場面をどのように並べ替えても一致しない
- しかし、日本人は...
- 依頼の負担と社会的距離は同じ使い分けを来たす？
 - Would・Could・Can・Will?
 - 負担に何が影響しているだろう

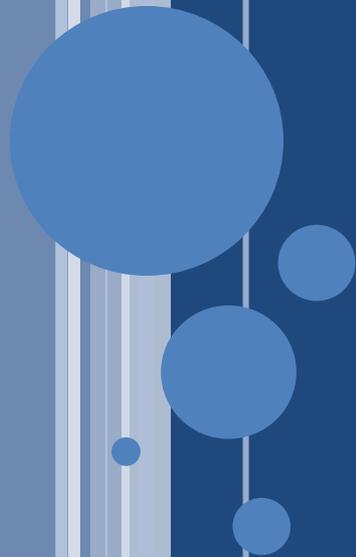


一元的でなくて何だろう？

- 相手から断られる理由などを考慮し、様々な方略に合わせて使用する。
- 個人の偏り(好み)がある。
- 性格も関係がある。
 - 何でも正当化してしまう人 (AC,AD)
 - 他人に思われていることを気にする人。(AI)
 - 人のせいにする人 (AJ)



日本人英語学習者



JSさん

23歳

男性

大学4年生

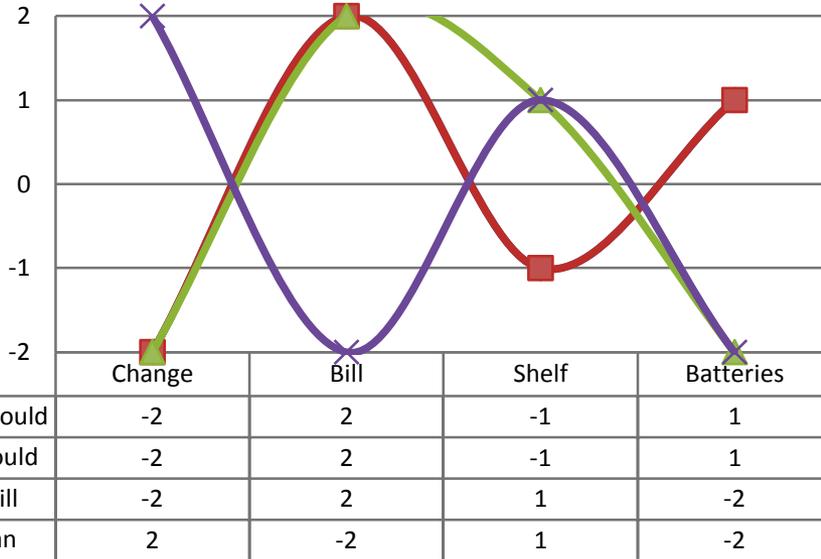
英語能力テスト:なし

留学経験:イギリスで一ヶ月

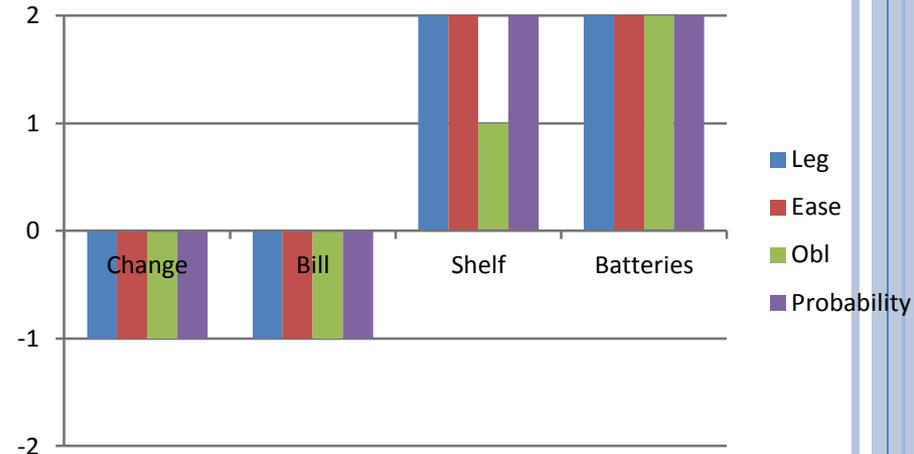


使用確率

JS



JS



断られた時の理由

Change:友人もお金を所持していない可能性がある。

Bill:既にお金を借りているため。

Shelf:よほどのめんどくさがりか、読んでいる本に夢中かではないだろうか。

Batteries:お店に欲しい電池が無い場合。

特徴

- Would, couldは全く一緒
- BatteriesはShelfよりもしやすいのにWould, Couldを使用
- Will、CanはChange、Billだけが異なる—意味的使い分け？



JTさん

21歳

女性

大学3年生

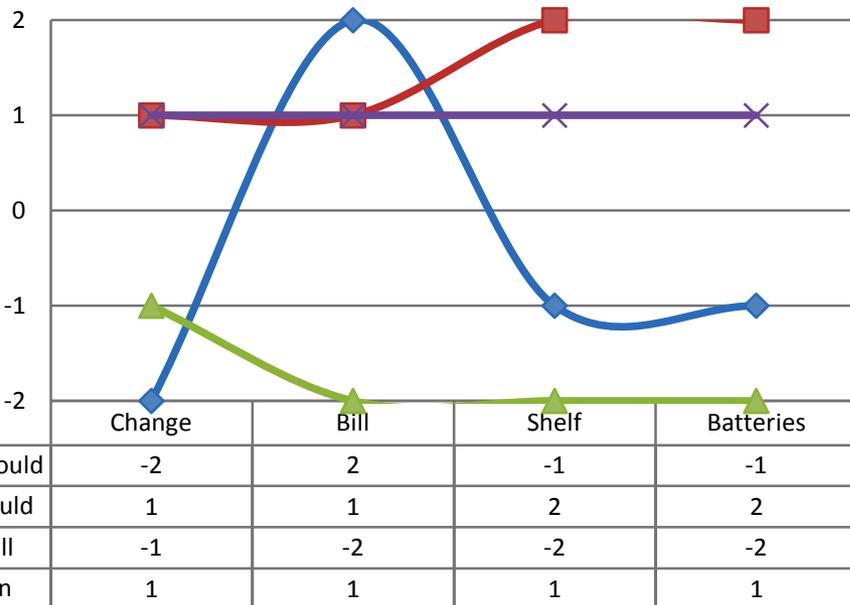
英語能力テスト： 英検2級

留学経験：無し

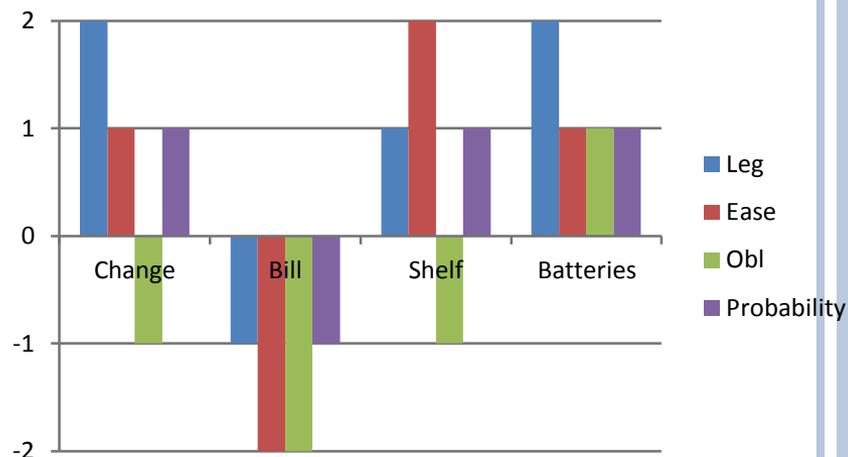


使用確率

JT



JT



断られた時の理由

Change:相手の持ち合わせの都合

Bill:信頼がないため

Shelf:物理的に遂行不可能であったため

Batteries:その売場の担当ではなかったため

特徴

- Canは区別無し
 - Wouldは電気代のみ
 - Willは全てにおいてマイナスだが、辛うじてChangeでは使いやすい
 - ShelfとBatteriesは全く同じ使用確率
 - ChangeよりもShelfがCould・(正当化の違い)「邪魔して悪い」から？
- 唯一Shelfに対して義理がないと答えた日本人(女性だから?)



JNさん

21歳

男性

大学3年生

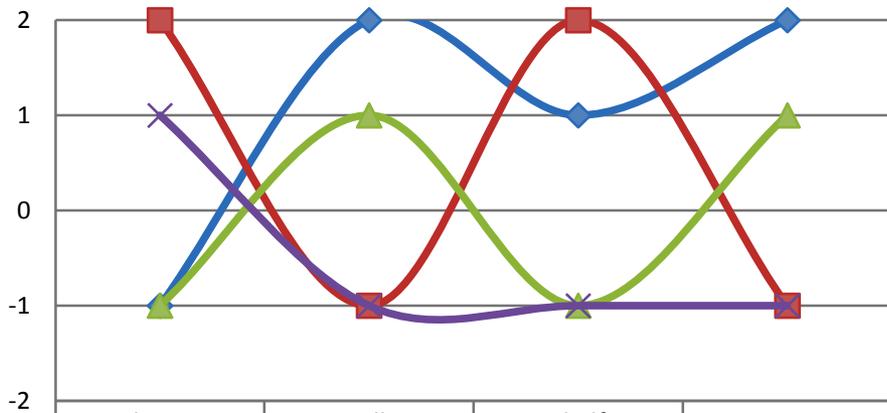
英語能力テスト: TOEIC825

留学経験: 無し



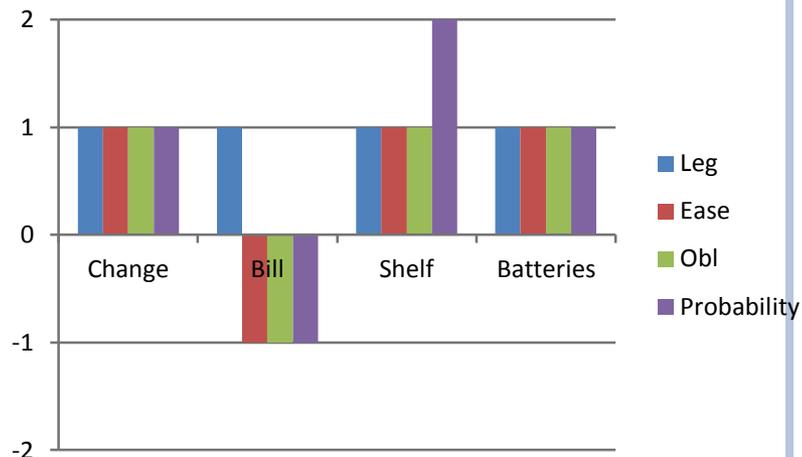
JN

使用確率



	Change	Bill	Shelf	Batteries
◆ Would	-1	2	1	2
■ Could	2	-1	2	-1
▲ Will	-1	1	-1	1
× Can	1	-1	-1	-1

JN



断られた時の理由

Change:手元に財布がないため

Bill:お金を貸す関係が続くことを恐れたため

Shelf:怪我をしていて取ることができないため

Batteries:その場所を知らないため

特徴

Change,Billは鏡、Would、Willがだめで

Can、Couldが可能

BillとBatteriesが一緒

WouldはCouldより丁寧？

WouldとWillは平行線に近い

Canを好まない



JOさん

38歳

男性

大学院生1年生

英語能力テスト: TOEFL(CTB)237、英検2級、TOEIC725

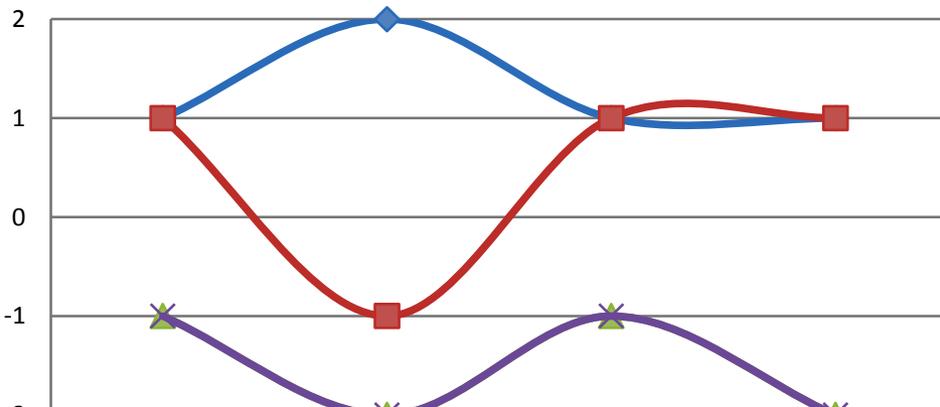
留学経験: カナダ

- 1997年3月-1998年1月(10ヶ月) 語学留学 カナダ
- 2004年8月-2007年2月(2年6ヶ月) 大学留学



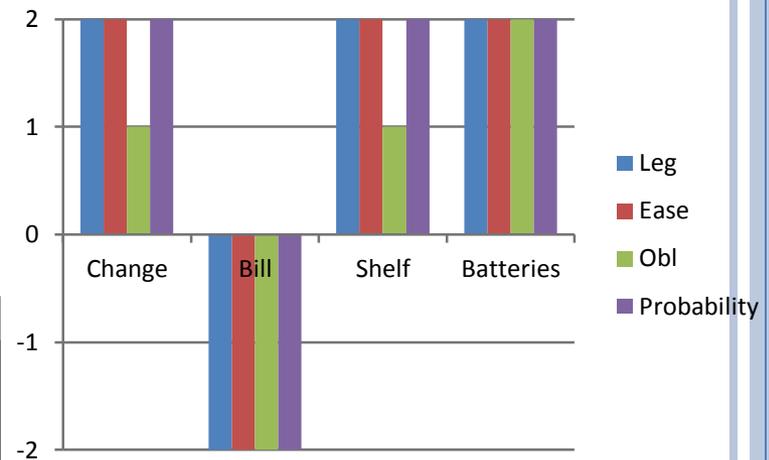
使用確率

JO



	Change	Bill	Shelf	Batteries
Would	1	2	1	1
Could	1	-1	1	1
Will	-1	-2	-1	-2
Can	-1	-2	-1	-2

JO



断られた時の理由

Change: ジュース程度の金額を借りるのを断るとしたら、よほど自分の使っている英語がひどいもの(失礼な響きになるような)であると考えられる。

Bill: 借りる金額にも“程”がある。

Shelf: 先ほどの質問での回答同様、英語表現に問題があると考えられる。

Batteries: 店員が客の申し出を断ることは日本社会では考えられない。もしそういう状況がアメリカなどの英語圏で起こりうるとしたら、自分の英語の表現が失礼にあたるものであると考えられる。

特徴

- 外国経験が比較的長く、英語表現の伝達を考慮する
- 全てにおいてWould、Couldが上
- Will、Canは一緒だが、Would、CouldはBillで異なる
- Will、CanはChangeとShelfにおいて少し確率アップ



JYさん

37歳

女性

主婦

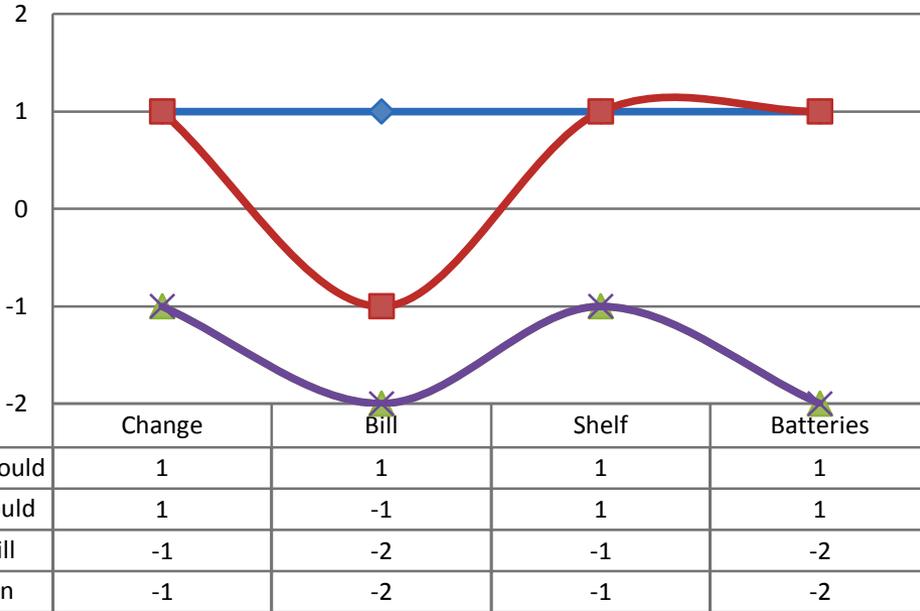
英語能力テスト： 英検2級

留学経験：無し

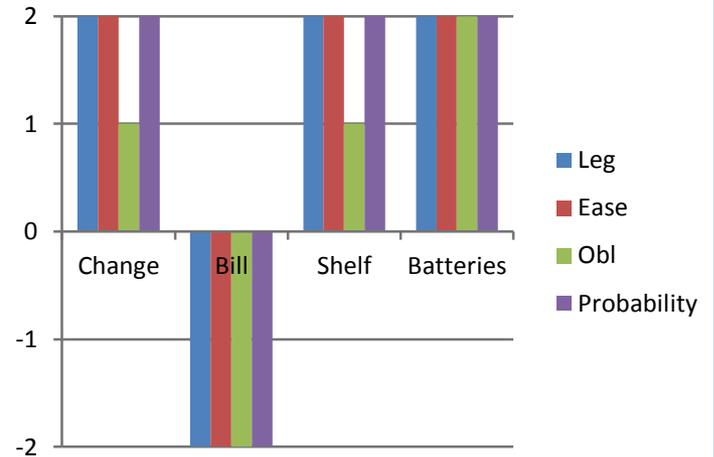


JY

使用確率



JY



断られた時の理由

Change: 貸すだけのお金を持っていないから。

Bill: お金にだらしがないから。

Shelf: この場合は断らないと思います。

Batteries: 店員が電池のある場所を知らない。

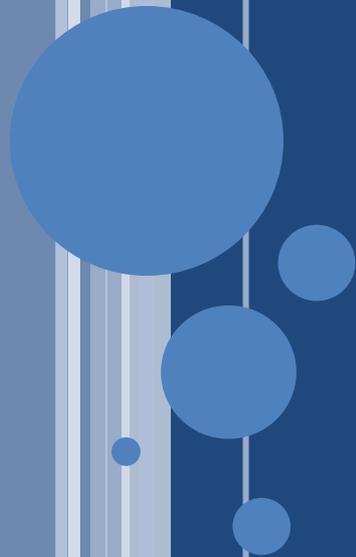
特徴

全てにおいてWould、Couldが上
Billだけ違う

Will, CanはChangeとShelfにおいて少し確率アップ



アメリカ人母語話者



AIさん

31歳

男性

出身:アメリカ合衆国

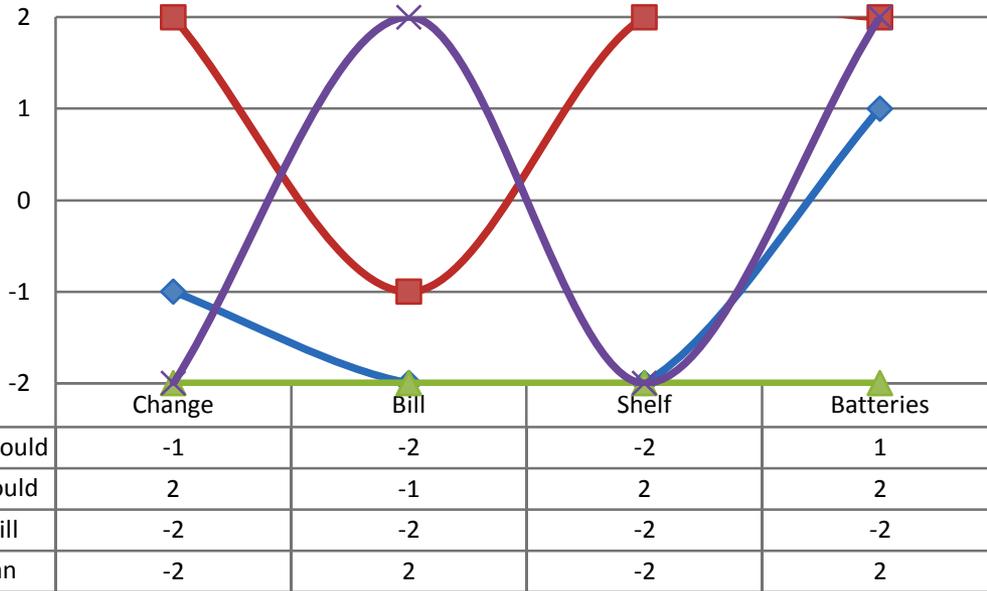
話せる外国語:無し

ソフトウェア開発者

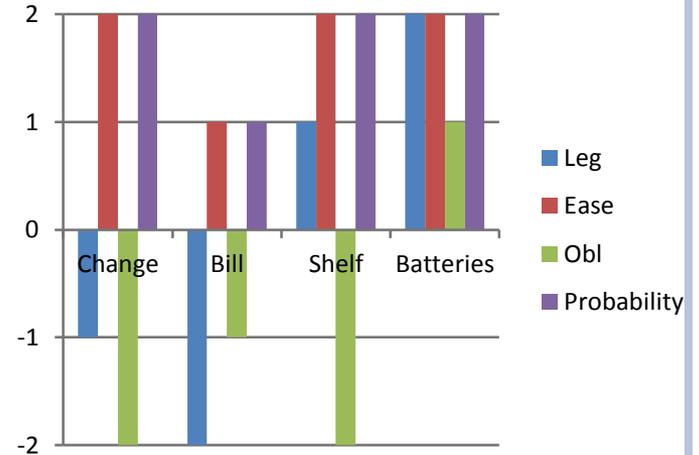


使用確率

AI



AI



断られた時の理由

Change: Not having cash available.

Bill: Not wanting to deal with the hassle of the loan.

Shelf: Secret dislike of me.

Batteries: Perception that I was being rude in asking the question.

特徴

Willは全く使用されない

WouldもBatteriesでしか使用しない

Canは負荷の重いBillで使用される。全く正当じゃないということから、依頼表現より「能力方略」

BatteriesもShelfも自己中心的な理由
断れる理由との関連性はあるそう



AJさん

55歳

女性

出身：アメリカ合衆国

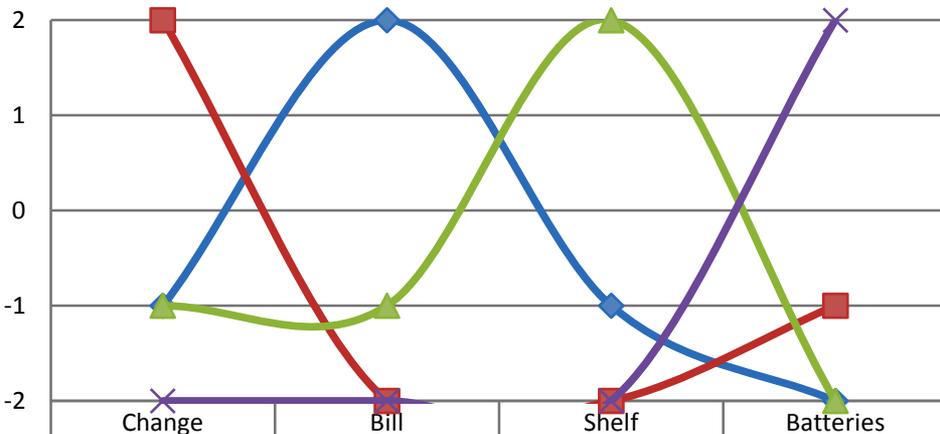
話せる外国語：無し

カウンセラー・管理職



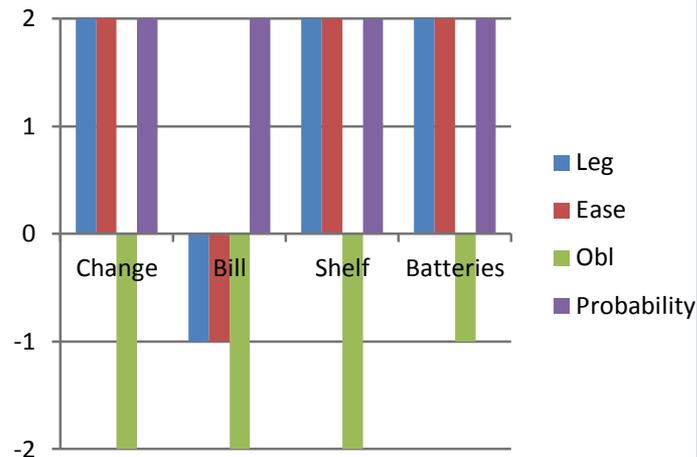
使用確率

AJ



◆ Would	-1	2	-1	-2
■ Could	2	-2	-2	-1
▲ Will	-1	-1	2	-2
✕ Can	-2	-2	-2	2

AJ



断られた時の理由

Change: she doesn[']t have the cash.

Bill: She doesn't have the extra cash to [lend] on hand or has decided not to lend money out anymore.

Shelf: She doesn't think she can reach the book or she is just being an idiot.

Batteries: She doesn't know where they are or she doesn't work for the store.

特徴

- WouldはBillで使う。(正当化の低さ、難易度の高さ、相手の意志)
- 唯一Willを一番に選んだ人(断られる時の理由に関係あり?)
- Canは店のみ使用
- 理由と関連性ありそう



AAさん

41歳

女性

出身：アメリカ合衆国

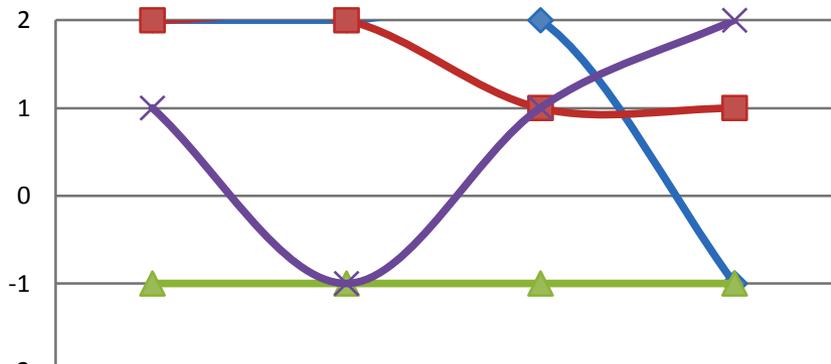
話せる外国語：無し

カウンセラー



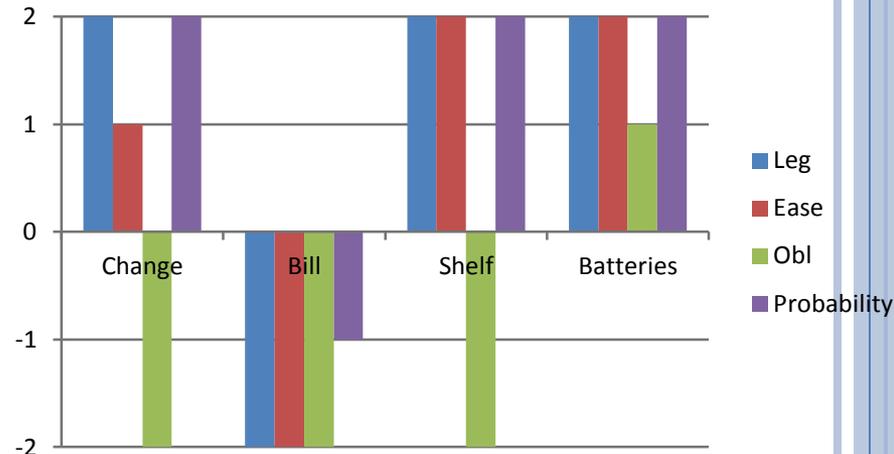
使用確率

AA



	Change	Bill	Shelf	Batteries
Would	2	2	2	-1
Could	2	2	1	1
Will	-1	-1	-1	-1
Can	1	-1	1	2

AA



断られた時の理由

Change: didn't have extra money

Bill: existing frustration at friend who keeps asking to borrow \$, can't lend anymore money[y]

Shelf: maybe has an injury and can't reach

Batteries: clerk unsure as to where they were located

特徴

Willは全く使用しない

Wouldを比較的よく使う

理由と関連性がありそう



ACさん

28歳

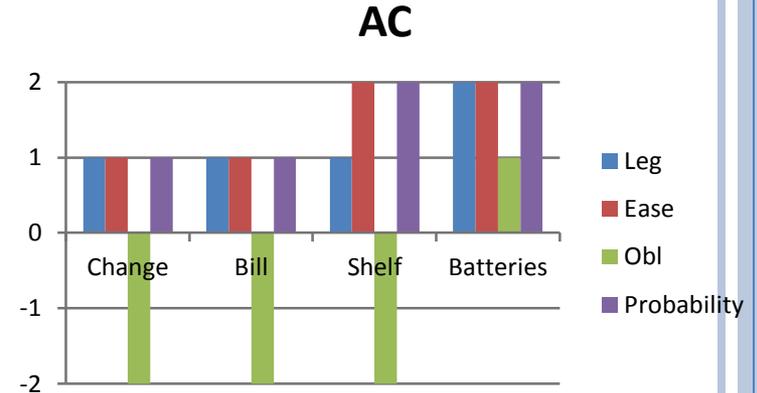
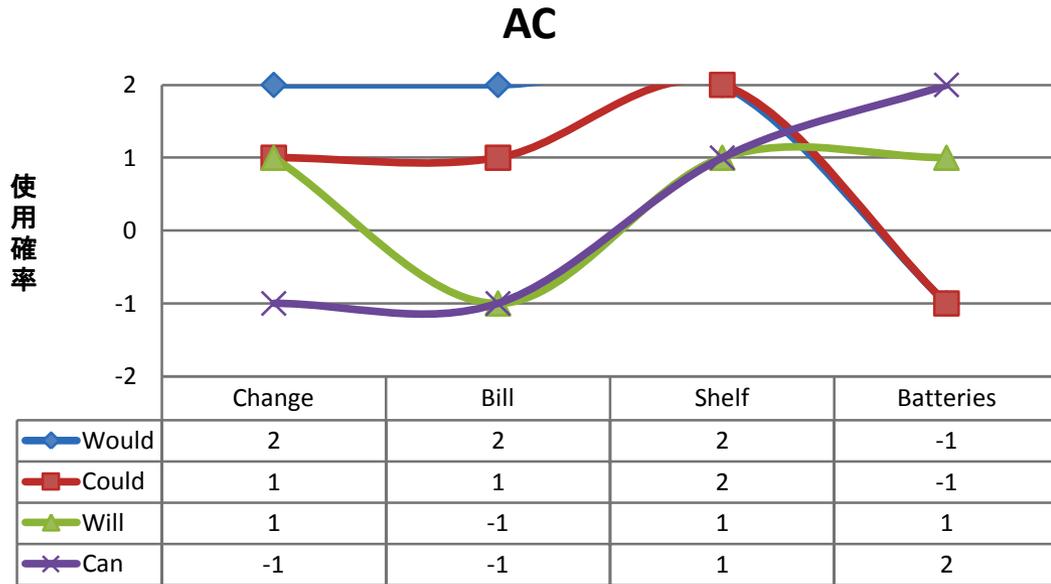
女性

出身:アメリカ合衆国

話せる外国語:無し

放送局の主調整操縦者





断られた時の理由

Change:No cash on hand.

Bill:You borrow too much.

Shelf:They're very busy.

Batteries:They don't know where they are either.

特徴

Wouldを使いやすい、正当に思しやすい



ADさん

27歳

女性

出身:アメリカ合衆国

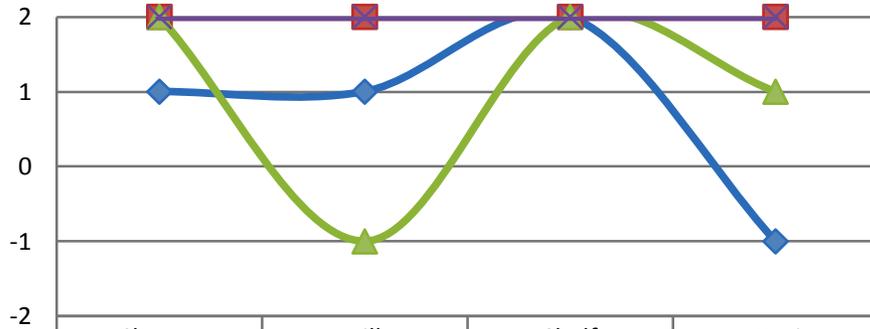
話せる外国語:無し

ホテルの清掃員



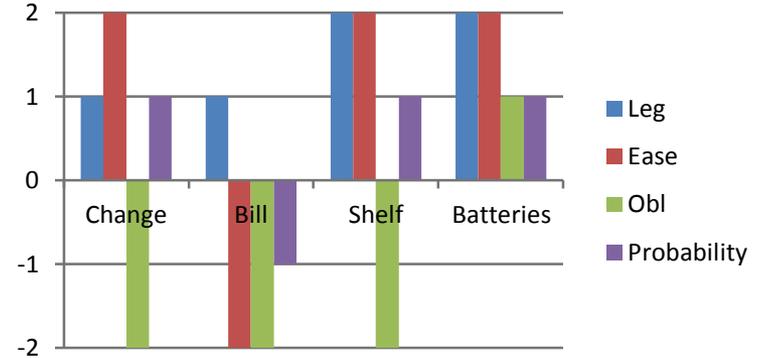
使用確立

AD



	Change	Bill	Shelf	Batteries
Would	1	1	2	-1
Could	2	2	2	2
Will	2	-1	2	1
Can	2	2	2	2

AD



断られた時の理由

Change: She didn't have any extra money to lend me.

Bill: They don't have it or are tired of lending me money.

Shelf: They don't think that they could reach or they are in a rush. Batteries: They don't know where the batteries are

特徴

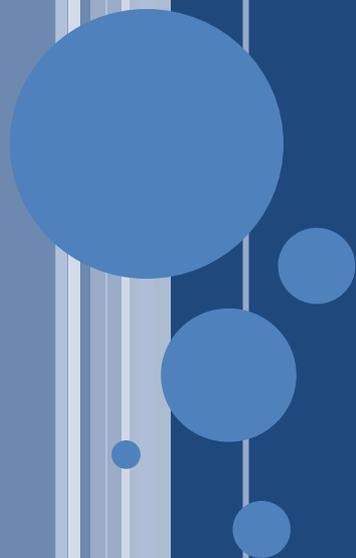
Can・Couldは全てにおいて使用される

WillはBillのみ使用されない

Shelfにおいて全部使用される



まとめ

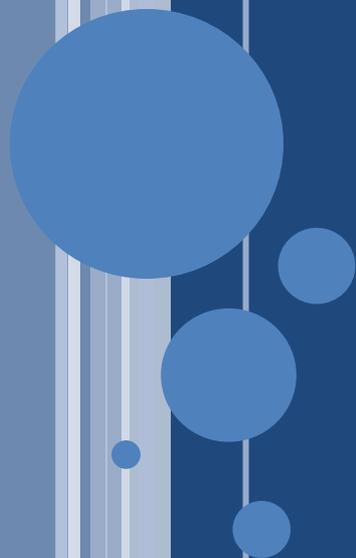


最後のまとめ

- 母語話者の使用パターンとして、状況の判断次第で多数多様な「方略」が可能になる。つまり、決まり切った使いわけでなく、意味と様式性を利用し、相手に依頼を達成させようとする。「動的」な表現である。
- 日本人学習者は「静的」な表現として使っている。B&LのいうR値(負担度)が高くなるにつれて、線状的に使い分けていく。ここではWould・Could・Can・Willが主な傾向になっているようだが、CanとWillの想定「丁寧さ」に個人差があるようである。



問題・限界 今後の研究

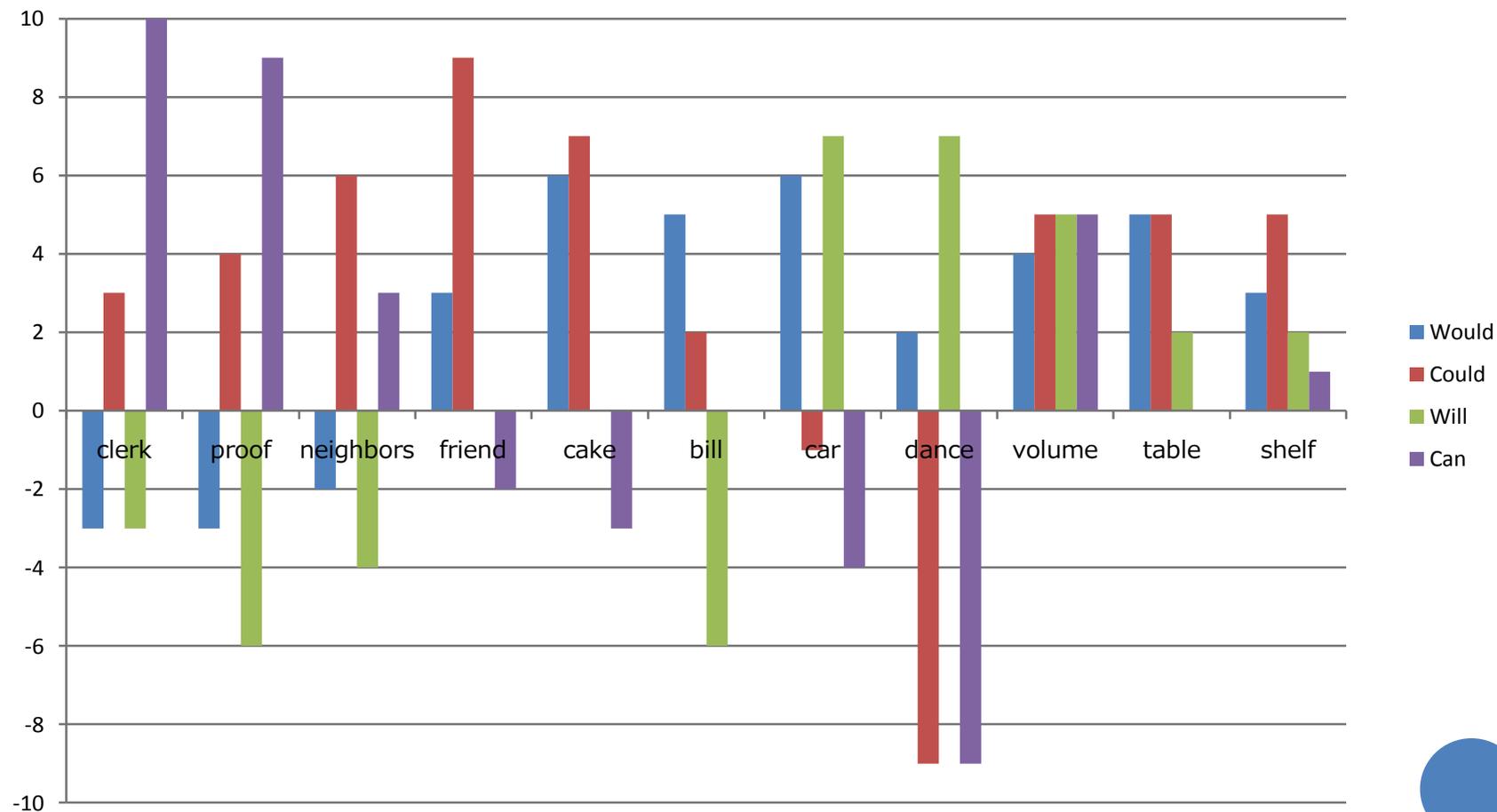


問題点・限界

- 「これは相手にとってこなしにくい」; “This is difficult for him”
 - お金など、腕力の要らないものに対して適切でない可能性がある
- 日本語版で「義理」という単語を採用したが、文化特有さゆえにバイアスが出た可能性はある。
- 協力者が少なく、英語能力もばらばらである。
- 今後、「なぜこれを選んだ」と明示的に尋ねるのも効果的だという可能性が大きい。
- 対人関係は友人・店員しか扱っていないため、身分に考慮した使い分けについては、ヒントは得られても言及できない
- 頼んでいる物、お金と行動で二種類になっているが、それもNSの使い分けに影響を与えている可能性はあるが、それを言い切るための証拠はない



アメリカ人英語母語話者の予備調査の全体結果



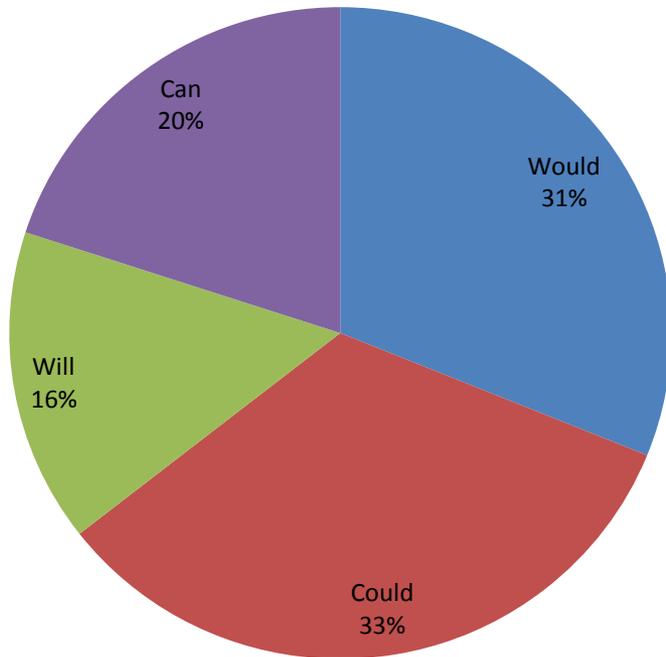
先行研究

- Blum-kulka, S., House, J., & Kasper, G. (Eds.). (1989). *Cross-cultural pragmatics: Requests and Apologies*. Norwood, NJ: Ablex Publishing Corporation.
- Brown, P., & Levinson, S. (1987). *Politeness: Some universals in language use*(Reissue.). Cambridge: Cambridge University.
- Cody, M. J., Canary, D. J., & Smith, S. W. (1994). Compliance gaining goals: an inductive analysis of actors' goal types, strategies and successes. In *Strategic interpersonal communication* (pp. 33–90). Hillsdale, New Jersey: Lawrence Erlbaum Associates, Publishers.
- Gibbs, R. (1985). Situational Conventions and Requests. In *Language and Social Situations* (pp. 99–110). New York: Springer-verlag.
- Hill, B., Ide, S., Ikuta, S., Kawasaki, A., & Ogino, T. (1986). Universals of linguistic politeness. *Journal of Pragmatics*, 10, 347–371.
- Hill, T. (1997). *The development of pragmatic competence in an EFL context*. (Unpublished Doctoral Dissertation). Temple University Japan.
- Kuraya, N. (2012). Requests and Imperative in Grammar References. 日本大学大学院総合社会情報研究科紀要, 13, 27–38.
- Meyer, J. (2002). Contextual influences on the pursuit of secondary goals in request messages. *Communication Monographs*, 69(3), 189–203. Retrieved from <http://www.tandfonline.com/doi/pdf/10.1080/03637750216539>
- Takahashi, S. (1995). *Pragmatic Transferability of L1 indirect strategies perceived by Japanese learners of English*. (Unpublished Doctoral Dissertation). University of Hawaii at Manoa, Manoa.
- Wilson, S. R., Aleman, C. G., & Leatham, Geoff B. (1998). Identity implications of influence goals: a revised analysis of face-threatening acts and compliance with same-sex friends. *Human Communication Research*, 25(1), 64–96.

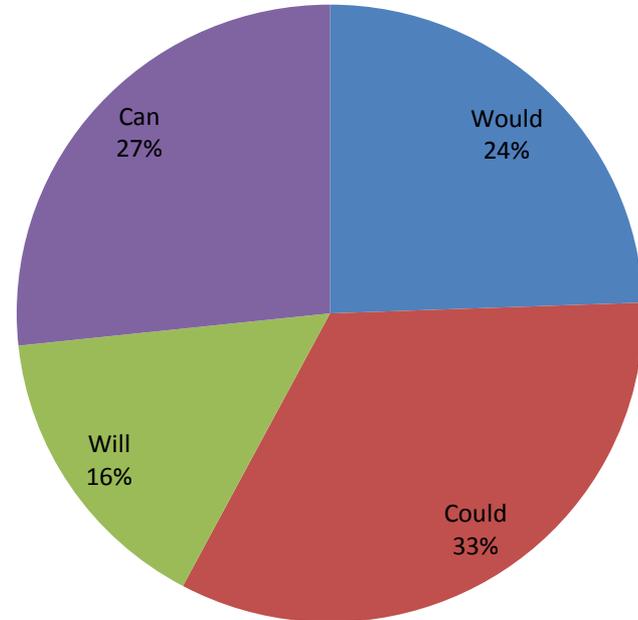


「全体」の傾向は誤解を招く

Japanese Affirmative

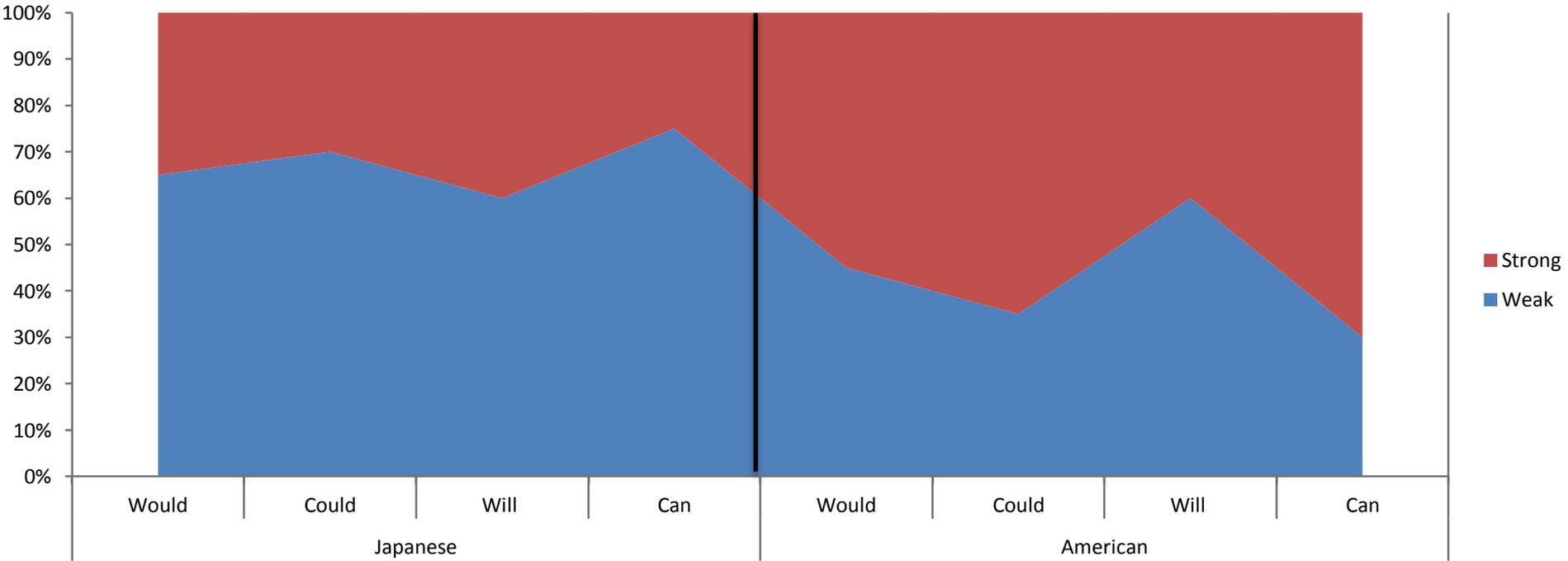
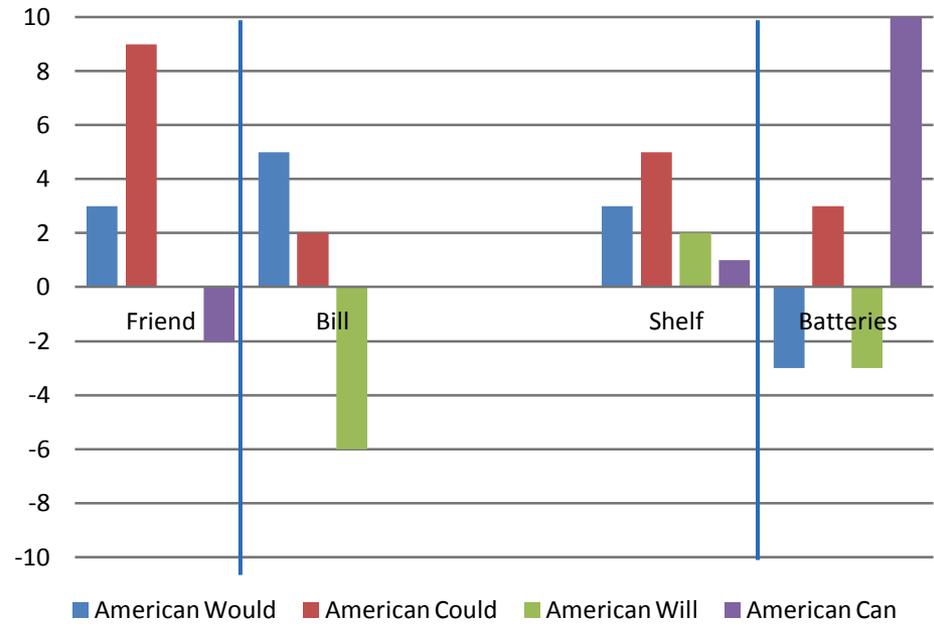
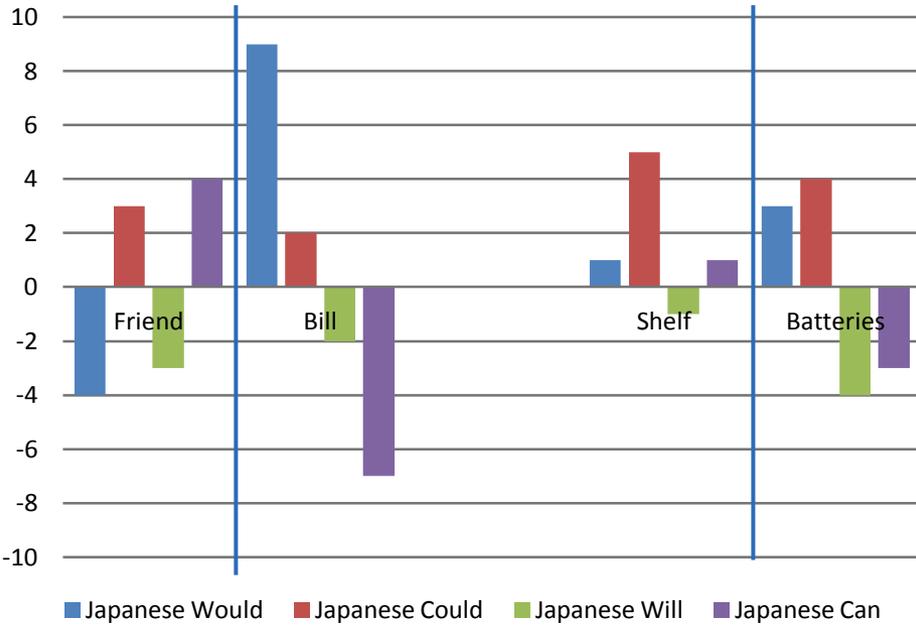


American Affirmative



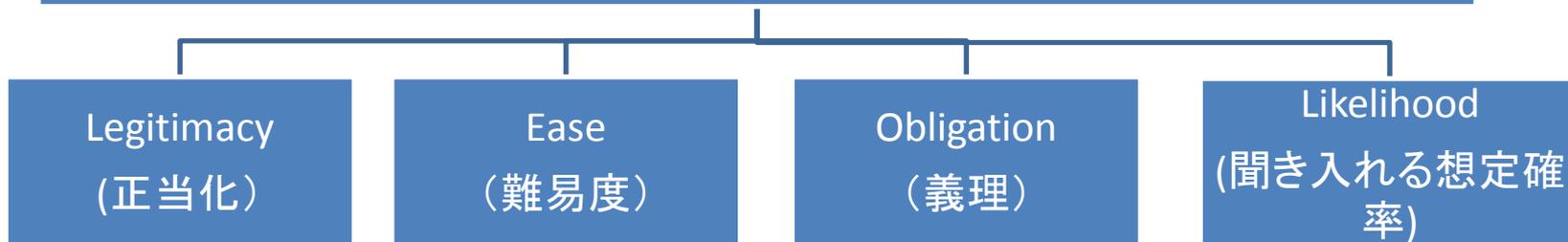
Japanese Results

American Results



調査の要素 (CONT.)

状況判断の作用 (総合負荷の構成素)



調査の要素 (CONT.)

方略に影響を及ぼしうる要素

断られる理由
(Gibbs 1985)

依頼の種類
(Wilson et al 1998)

「お金を欲求する場面」

「行動を欲求場面」



調査の要素

依頼表現と「丁寧さ」の関わり

負荷度の影響

- 対人関係(親しい友人)を制御変数にして負荷度の影響を調べるためのペア

社会的距離の影響

- 負荷度(低い)を制御変数にし、社会的距離の影響を調べるためのペア

